

日々の作業が楽になる！ クラウドサービス便利帳

第12回

どこからでもアクセスできる データベースの新常識

早稲田大学大学院理工学専修科終了。(株)インクスにて製造系コンサルティング部署に所属。自動車、自動車部品、製品開発領域の業務プロセス改革プロジェクトを担当後、新設の経営企画室に異動。経営会議の運営、役員アクション推進、部門横断プロジェクト管理・推進、新人教育運営に携わる。現在は株スタディストにてクラウド型マニュアル作成ツール「Teachme Biz」の広報、マーケティング、ユーザーサポートを担当。



豆田 裕亮
Yusuke Mameda

図1：わずか数分で作成した入力画面

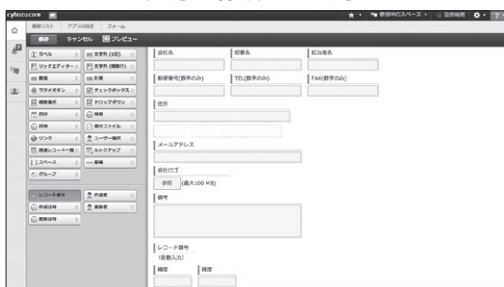


図2：登録した情報の一覧表示画面



図3：グラフ表示の一例



●kintone (キントーン)

価格：ライトコース月額780円
(30日間試用プランあり)、スタンダードコース月額1,500円

提供元：サイボウズ様

URL：https://kintone.cybozu.com



直感的操作で使いやすい
データベースというと、難しい印象
▼

商売が拡大してくると、取引先やお客様が多くなり、「そろそろリストで取引先・顧客管理したいな」となるでしょう。真っ先に思いつくのがExcelなどの表計算ソフトかと思いますが、住所と名前、電話番号など1行で済む簡単な内容であれば、表計算ソフトでも管理できますが、弱点はスマートフォンやタブレットから操作がしづらいことです。

そこで今回は「Kintone (キントーン)」という簡単にデータベースを作成できるクラウドサービスを紹介しします。私も顧客管理や、サービスを販売しているパートナーの管理に活用しています。

象を持つかもしれませんが、データベースの特徴は取引先などを1件ずつ表示することと、まとめて一覧表示することが簡単に行なえる点です。

まず入力したい情報(社名、郵便番号、住所、取引条件など)を決めます。そのデータを専用の編集画面の対応箇所に入力するだけでデータベースを作成できます。(図1)。

そして、作成した入力画面から取引先などの情報をそれぞれ登録すると、同時に一覧表も完成します(図2)。直感的に操作できるのですが、最初は既存のアプリを活用しながら、改修していく方法もあります。

キントーンの良さは、この後の利用方法にあります。都道府県別、業種別、取引商品別、取引回数別といった用途に応じたリストを保存して

おけるのです。いつでも見たいリストを表示できるため、リスト表示の設定に手間がかかりません。

また、グラフや表を作成する機能があり、売上推移、顧客ごとの売上推移、週ごとの受注件数なども継続的に記録することができ(図3)。

表計算ソフトは規模が大きくなればなるほど、運用のためのスキル、コストが増大します。また、データ入力はパソコンからの操作が中心になります。一方、倉庫内での在庫確認にしても、その場でタブレットから入力・確認作業ができるとなれば、有料のクラウドサービスを導入するメリットも感じられることでしょう。今回は、実践的な使用方法を説明していきたいと思えます。